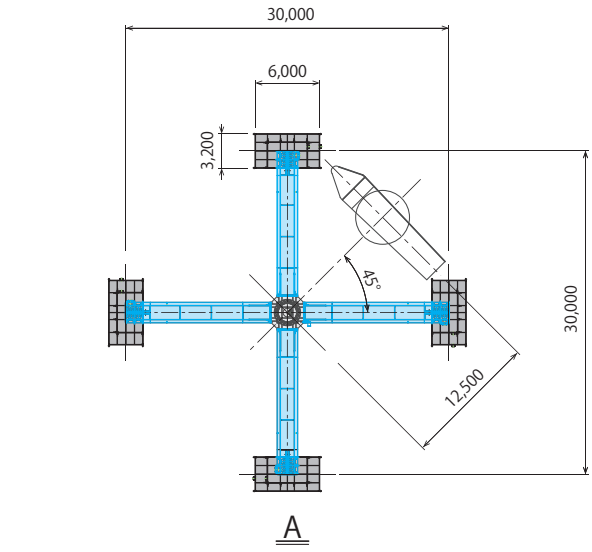
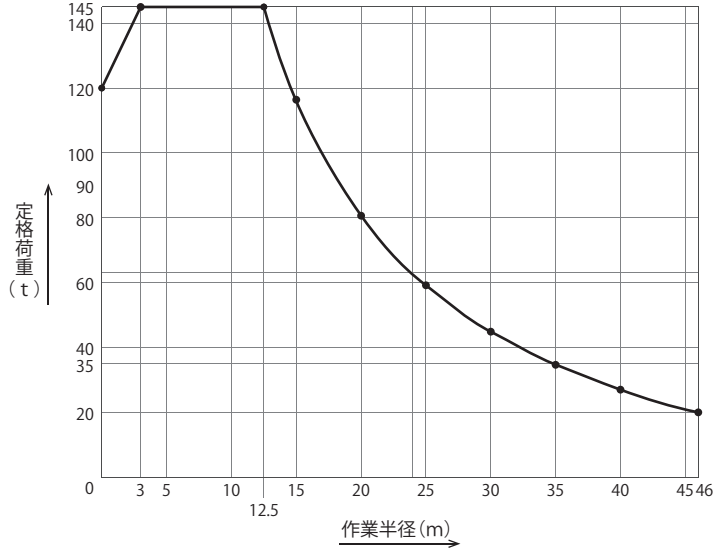


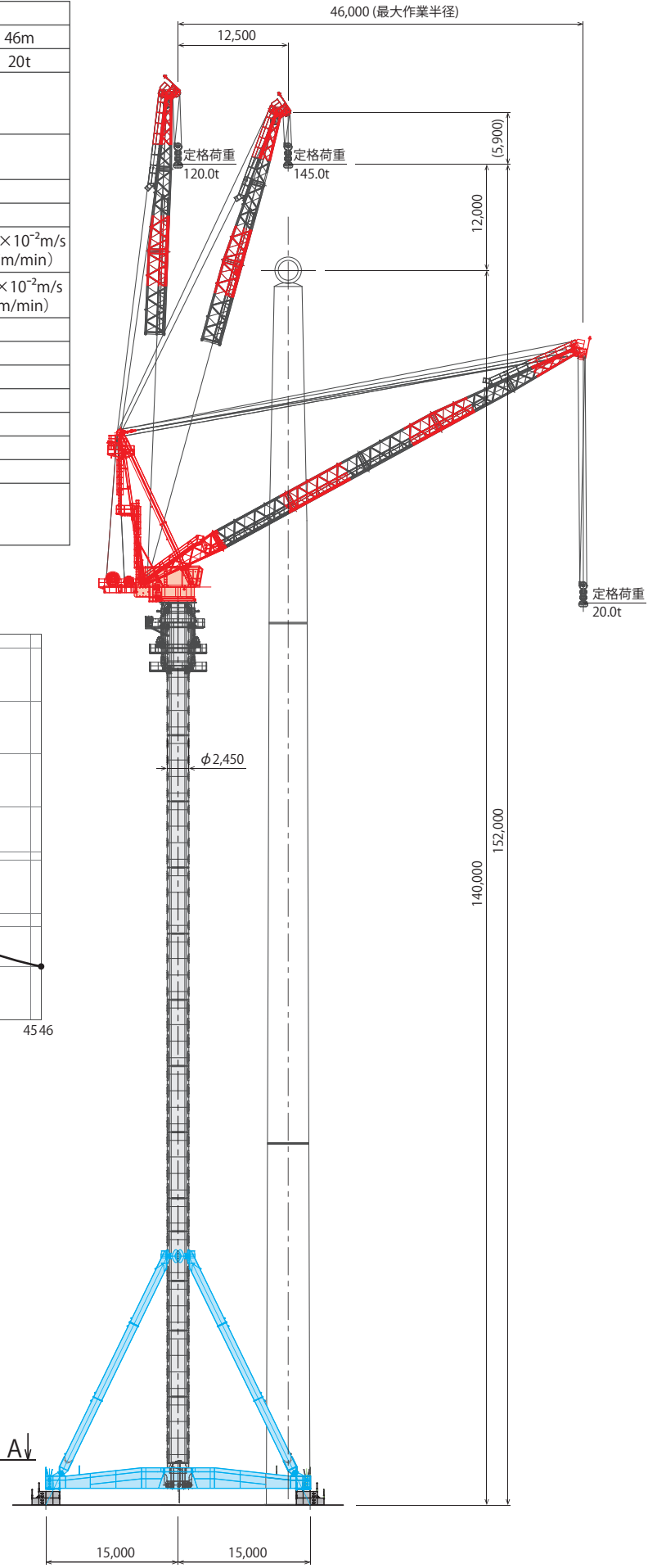
●仕様

最大作業半径	46m				
作業半径	0m	3m	12.5m	35m	46m
定格荷重	120t	145t	145t	35t	20t
速度	巻上	145.0t～16.0t 0.166m/s～0.474m/s (10.0m/min～28.4m/min)			
	起伏	平均0.31m/s (作業半径:3m～46m)			
	旋回	138s			
	旋回	0.30min ⁻¹ (0.30r.p.m.)			
昇降	重負荷時	押出 0.69×10 ⁻² /0.83×10 ⁻² m/s、引込 1.48×10 ⁻² /1.79×10 ⁻² m/s (0.41m/min / 0.50m/min) (0.89m/min / 1.07m/min)			
	軽負荷時	押出 1.59×10 ⁻² /1.91×10 ⁻² m/s、引込 3.40×10 ⁻² /4.11×10 ⁻² m/s (0.95m/min / 1.15m/min) (2.04m/min / 2.47m/min)			
電動機	巻上	300kW	かご形	60%ED	インバータ制御
	起伏	110kW	かご形	25%ED	インバータ制御
	旋回	22kW	かご形	25%ED	インバータ制御
	昇降	30kW	かご形	連続	
揚程	152m				
電源	AC 400／440V 50／60Hz				
電源容量	600KVA (発電機容量1,600KVA)				
備考	・巻上速度は、巻上ドラムの最大巻層時を示す。 ・起伏速度は、16.0t以下時を示す。 ・発電機の回生電力許容量は20%以上。				

●定格荷重曲線



●主要寸法図



国内最高揚程152m・多軸台車で移動可能

大型陸上風車建設用移動式タワークレーン

S-Movable
Towercrane®

S-Movable Towercraneは、高さ140mクラス・5～6MWクラスの大型陸上風車建設に対応可能な、国内最大・最高性能の移動式タワークレーンです。
クレーン本体を解体せず、多軸台車に載せて風車建設サイト間を移動できるため、移動作業の効率化と工程短縮に貢献します。

本クレーンは、(株)エスシー・マシーナリ、IHI 運搬機械(株)との共同開発です。

① 自立式で超大型風車の建設が可能

風車からのサポートを必要としない自立式構造で、最大作業高さ 152m、最大揚重能力 145t の国内最大・最高性能を誇るタワークレーンです。5 ～ 6MWクラスの大型陸上風車の建設に対応できます。

② 多軸台車で風車建設サイト間の移動が可能 【特許出願中】

風車建設後、自らマストを解体しながらクライミングダウンします。クレーン本体を解体せず、自走式多軸台車に載せて次の建設サイトに移動できるため、解体・移動・組立のサイクルを4日で完了します。



③ 遠隔操作が可能

クレーン運転室だけでなく、地上や風車ナセル内から遠隔操作ができます。



④ 円筒形状マストを採用

従来の矩形トラス形状に代わり円筒形状のマストを採用。剛性を高めるとともに、風圧の影響を低減させることで安定した施工を実現します。

⑤ 暴風対策が容易

ベースウェイトに吊ワイヤーを固定することで暴風時(最大55m/s)のジブ背面倒れが防止できるため、暴風対策のためのクライミングダウンが不要です。

⑥ ピン結合のマストステーを採用 【特許出願中】

マストステーの設置により、吊上げ時のマストのたわみを低減し、安定性と安全性の向上を実現。さらに、マストステーの接続部をピン構造としたため、組立や解体に要する時間を短縮できます。



クレーン解体・移動手順

STEP1

解体準備

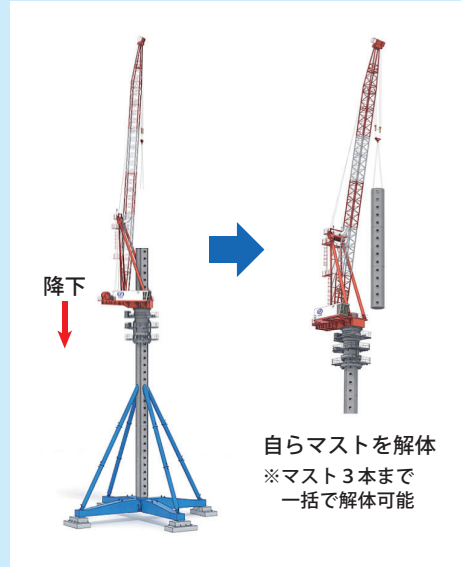
風車組立完了後、ジブが風車ブレードに干渉しないようにクレーン本体を旋回します。



STEP2

マスト解体

「クレーン本体を降下→自らマストを解体」を繰り返しながら、クライミングダウンします。



STEP3

多軸台車セット

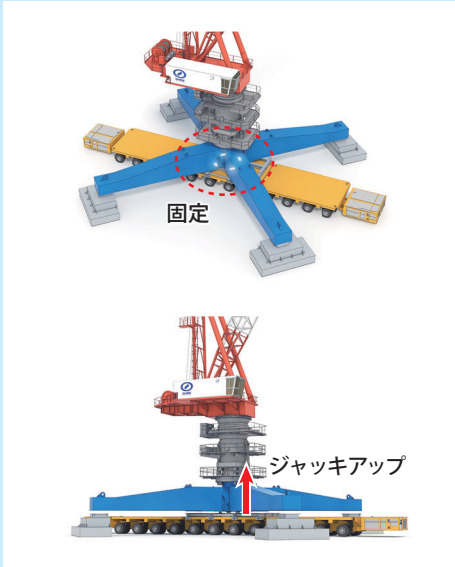
クレーン脚部の下に、専用架台を装着した多軸台車を誘導。脚部に接触するまで荷台を上昇させます。



STEP4

クレーン固定

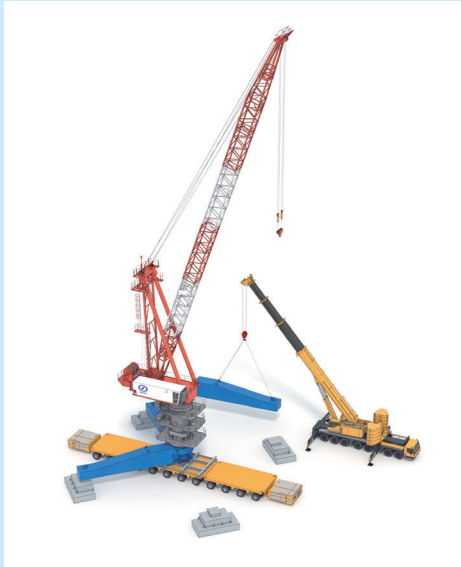
専用架台にクレーン本体を固定。クレーンの全荷重がかかるまでジャッキアップします。



STEP5

脚部解体

相番(サブ)クレーンで脚部を解体。ベースウェイト2基を多軸台車の前後に設置し、安定性を確保します。



STEP6

移動

多軸台車にフックを固定し、控えワイヤーを取り付け、次の建設サイトに移動します。

